

新ひだか町立学校の調査結果

はじめに

平成29年度「全国学力・学習状況調査（平成29年4月18日実施）」が、全国の小学6年生と中学3年生を対象に行われ、結果が公表されました。学力調査は、国語及び算数・数学の主に知識に関する「A問題」と、主に活用に関する「B問題」で行われ、併せて生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も実施されています。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を改善することを目的に実施されています。ここでは、新ひだか町立学校の調査結果及び分析結果の特徴的な部分と、町全体としての学力向上策について町民の皆様にお知らせします。

つきましては、学校・家庭・地域が一体となって、新ひだか町の子どもの学力を高めていくため、理解を深めていただきますようお願いいたします。

更なる授業改善と家庭学習習慣の確立が課題

学力調査から、平均正答率では、小学校国語B、小学校算数

Aと中学校国語A、中学校数学Bにおいて、全道と比較して差が縮まりましたが、ほかの教科では依然として、差が大きい状況にあります。

しかし、前年度との比較では、二桁以上平均正答率を上げた学校が複数あり、全体としてもほとんどの学校で平均正答率が上がっています。

このように、全国・全道の平均正答率を超えることはできませんでしたが、町全体としては、各学校の学力向上策が少しずつ結果に表れてきているのではないかと分析しています。

学習状況調査からは、依然として小・中学校ともに家庭学習の時間が短く、テレビの視聴時間やテレビゲーム、スマートフォンやタブレットの利用時間が長い児童生徒の割合が高い状況が続いており、特に中学生におけるスマートフォン上の利用時間で、1日4時間以上利用していると答えた割合が全国・全道の2倍以上となっています。また、「朝食を毎朝食べる」という児童生徒の割合が全国・全道に比べ、低い結果となっています。

このため、「新ひだか町の学力向上策」を各学校で一層強化

するとともに、家庭生活習慣の改善及び家庭学習習慣の定着が必要であると考えています。特に学校においては、「この授業で何ができるようにすればよいのか」「児童生徒が理解したことやできることをいかに活用できるようにするのか」を明確にした授業づくりが求められます。また、子どもが自分で考え、課題を解決し、物事を理解するとともに、その課題解決の過程を通して、考える力や判断する力、表現する力等を高められるよう授業改善を進める必要があります。

一方、家庭においては、生活リズムを整え、睡眠を毎日8時間程度は確保し、朝食を必ずとることや、小学生では学年×10分以上、中学生は最低でも1時間以上の家庭学習に取り組みせたいと、高学年進学校といたった目の進路目標だけでなく、その先の進学や資格取得など、将来、どのような仕事に就き、どんな生活をしていくか、そのために何をなすべきかをお子さんとじっくり話し合う機会を設けていた、きたいと願っています。

どのお子さんも無限の可能性を秘めた存在です。その可能性を開花させるために、町民の皆様のご理解とご協力をよろしく

新ひだか町の学力向上策

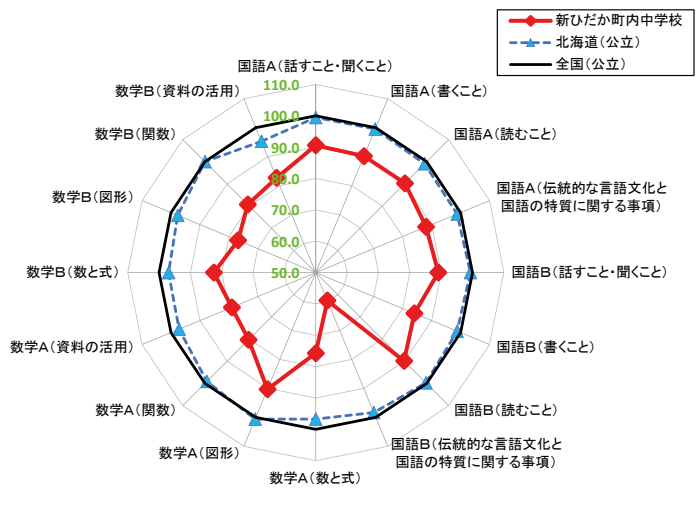
- ◎全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた授業改善及び家庭での生活リズムの改善と家庭学習習慣の定着
- ◎主体的・対話的で深い学びを実現するための問題解決的な学習過程を位置づけた授業改善
- ◎学習内容の理解と情報活用等の資質能力向上のための授業におけるICT機器の日常的な活用
- ◎町教育委員会主催の学力向上推進会議を通じた標準学力調査結果の分析・活用と学校間連携による優れた実践の共有
- ◎次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント※1の確立

※1 学校の教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程（カリキュラム）を編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくこと。また、そのための条件づくり・整備。

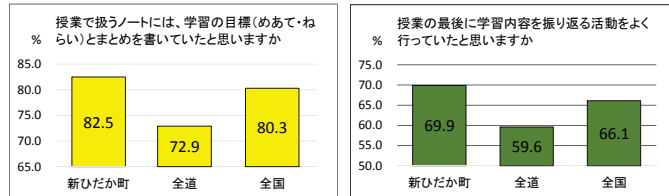
新ひだか町内中学校の状況（学校数：3校、第3学年生徒数：166人）

【教科全体の状況】

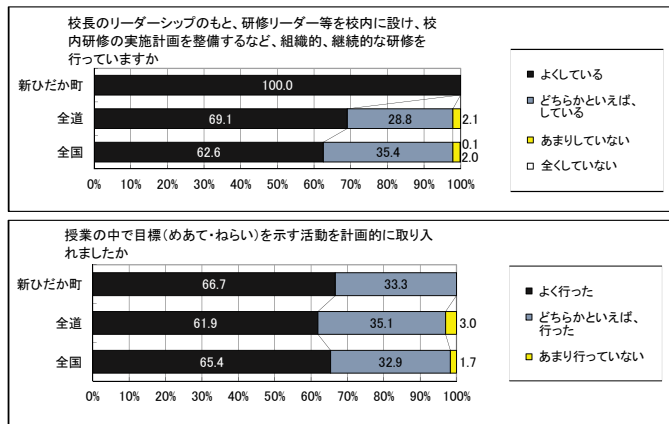
- 各教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び新ひだか町の状況をレーダーチャートで示したものを（新ひだか町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
- 国語・数学の知識に関する「A問題」と活用に関する「B問題」で実施



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



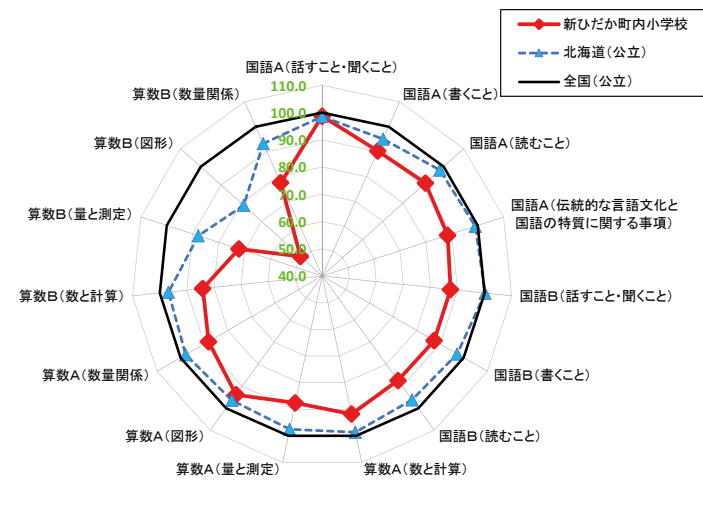
【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ●国語Aでは、「読むこと」で全道に最も近くなっている。 ●数学Bでは、「資料の活用」で全道に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校務分掌に位置づけ、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行ったことにより、授業改善が図られ、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。 ●授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたことにより、「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ●「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ●「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ●「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ●「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、全国を上回っている。 	

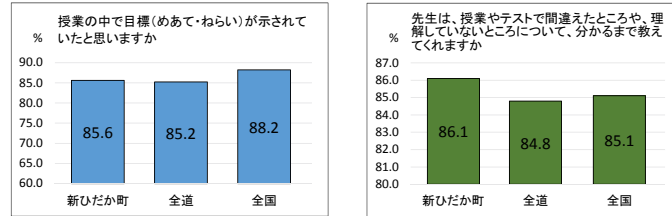
新ひだか町内小学校の状況（学校数：6校、第6学年児童数：180人）

【教科全体の状況】

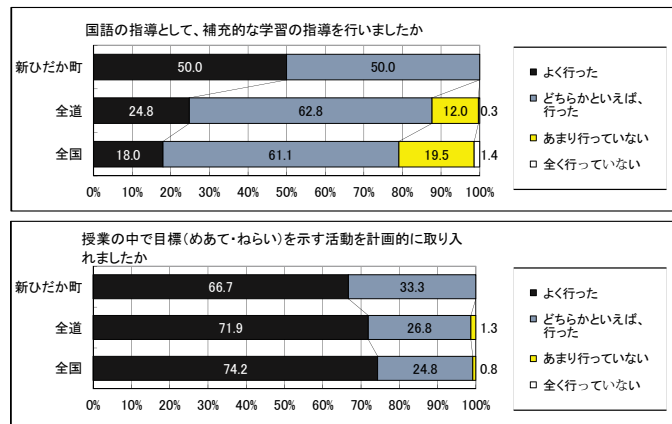
- 各教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び新ひだか町の状況をレーダーチャートで示したものを（新ひだか町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
- 国語・算数の知識に関する「A問題」と活用に関する「B問題」で実施



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ●国語Aでは、「話すこと・聞くこと」で全道を上回っている。 ●算数Aでは、「図形」で全道に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国語の指導として、各学校が個別指導や補充的な学習の指導を積極的に行ったことにより、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて教えてくれる」と回答した児童の割合が、全国を上回り、国語Aの「話すこと・聞くこと」において、全道を上回ったと考えられる。 ●主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善及び授業におけるICT機器の日常的な活用を推進したことにより、「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、全国を上回るとともに、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答した児童の割合が、全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ●「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答した児童の割合が全道を上回っている。 ●「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ●「国語の指導として、補充的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ●「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、全国を上回っている。 	